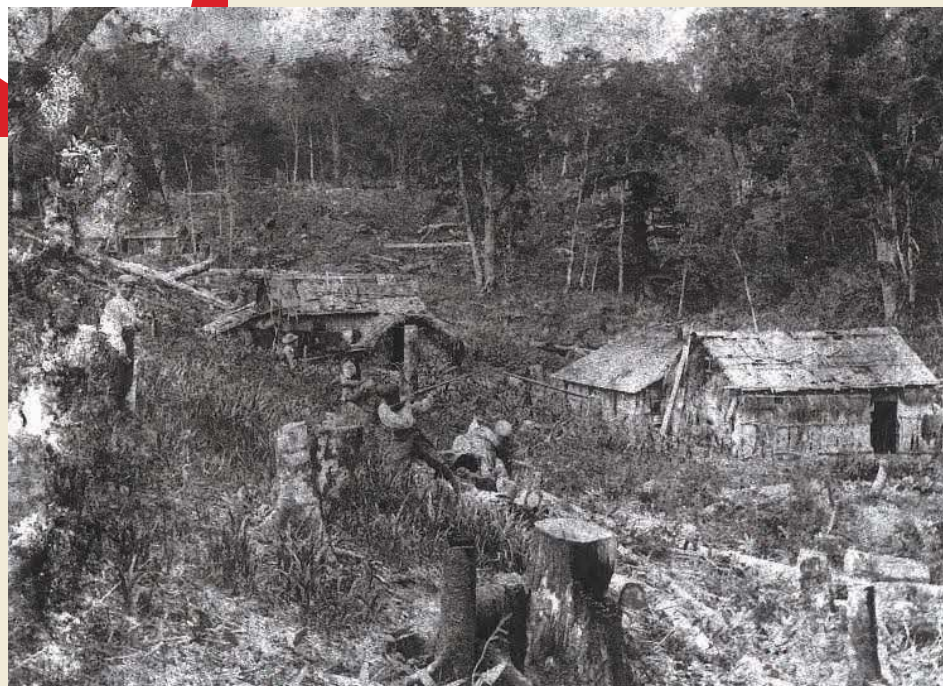




栗の木岱（現在の栗岡） 明治末頃

明治時代

明治6年、長万部村のはじまり

近世末、長万部は近世最大の民族衝突であるシャクシャインの戦いを経て、江戸幕府の献上品となるオットセイの名産地として知られていた。明治維新後、蝦夷地が北海道となり、明治6年には長万部村が発足し、函館支庁出張所が置かれた。これが現在の町の礎となった。明治後半には鉄道が開業し、発展の足がかりが築かれた。

長万部町の軌跡①

- 1669** 寛文9年 国縫・長万部がシャクシャインの戦いの決戦場となる
- 1773** 安永2年 番屋が建てられ、幕府の役人や旅行者のための宿泊に利用される
- 1799** 寛政11年 幕府が長万部を含む東蝦夷地を直轄支配地とする
砂原～長万部間に陸路開発
- 1807** 文化4年 幕府が蝦夷地全域を直轄支配
- 1821** 文政4年 幕府が蝦夷地全域を松前藩領とする
- 1855** 安政2年 再び幕府の直轄支配となる
- 1856** 安政3年 南部藩が幕府に対露警備を命じられ
長万部分屯所（南部陣屋）設置（翌年廃止）
- 1864** 元治元年 長万部村と称され村並（和人地）となる（名主・竹内弥兵衛）
- 1869** 明治2年 蝦夷地が北海道と改称、長万部村が胆振国山越郡に属す
- 1873** 明治6年 名主・竹内弥兵衛が副戸長を命じられる（長万部開礎の年）
札幌本道（函館～札幌間）開通
- 1878** 明治11年 栗の木岱（現在の栗岡）が主要な開墾地となる。長万部に公立学校設置（長万部学校）
- 1879** 明治12年 長万部に公立病院設置
- 1883** 明治16年 バッタの大群が農作物を荒らす
- 1884** 明治17年 森警察署の警察分署を設置
- 1885** 明治18年 市街地の半分以上が焼ける長万部大火。長万部沖でアイヌ民族による記録上最後のクジラ漁
- 1891** 明治24年 函館～札幌間（定山溪経由）新道開通
- 1898** 明治31年 戸長役場を新築
- 1903** 明治36年 森～熱帯間鉄道が開通し、国縫、長万部、二股に停車駅開設
- 1904** 明治37年 函樽鉄道全通
- 1906** 明治39年 二級町村制施行
- 1908** 明治41年 長万部種馬所開設



豊津・長万部種馬所 昭和9年

OSHAMAMBE

HOKKAIDO

HISTORY OF OSHAMAMBE 長万部町の軌跡

開礎150年町制施行80年、年表と写真でたどる長万部。

令和5年、開礎150年町制施行80年を迎えた長万部町。

古くは縄文時代から人々の生活が営まれてきたこの地が、歴史上大きくその地域性を示すことになったのは、17世紀の「シャクシャインの戦い」だった。この頃すでに、長万部は日本海側と太平洋側を往来する交通の要衝として重視されていた。

明治期の入植者の大量移入を契機に鉄道網の結節点として賑わい、漁業や畜産業を中心に発達し、さらに新たなまちづくりに挑戦する長万部町の歩みを年表と写真とともに振り返る。



長万部温泉街 昭和30年代



長万部温泉の噴出 昭和30年

終戦後 昭和39年

終戦後、民主化が図られる中、公選による初の町長選が実施された。農協や漁協、警察署、消防本部、教育委員会、商工会の発足など、町のさまざまな分野で基盤が築かれた。昭和30年代には、天然ガスと温泉の噴出により、町にとって重要な要素が加わることとなった。農業は近代的酪農経営が導入され、戦後開拓の進展とともに大規模化した。

長万部温泉と天然ガス事業がスタート。

大正時代 昭和20年

戦時下の町制施行で長万部町となる。大正から昭和にかけて、着々と鉄道網が充実する一方、村は鰯漁の最盛期を迎えフィッシュミール工場の建設など漁業発展の礎が築かれた。戦時中の昭和18年、町制が施行され、長万部村から長万部町となった。



静狩金山精錬所全景 昭和12年



静狩金山鉱区権認可後の開鉱式 大正10年頃

長万部町の軌跡③

- 1946 昭和21年** 長万部民報創刊。北海道アイヌ協会長万部支部結成
種馬所を廃し、胆振種畜牧場と改称(昭和24年、閉鎖)
- 1947 昭和22年** 公選による初の町長選
長万部、静狩、国縫、双葉に中学校と役場分室を設置
- 1948 昭和23年** 北海道支庁設置条例の施行により、渡島支庁の管轄となる
長万部町警察署と長万部町消防本部が創設
長万部町農業協同組合設立
- 1949 昭和24年** 長万部信用組合設立
長万部・静狩・国縫で新漁業協同組合4団体が発足(昭和39年、統合)
- 1950 昭和25年** 道立八雲高等学校長万部分校創立
(昭和26年、長万部高等学校に格上げ)
静狩湿原が国の天然記念物指定解除、静狩原野入植受付を開始
飯生神社例大祭、初の神輿海上渡御を実施
- 1952 昭和27年** 長万部農業協同組合が旭浜に家畜診療所と人工授精所を開設
自治体警察(長万部町警察署)国家警察に移管、長万部警部派出所に
- 1953 昭和28年** 長万部民報廃刊に伴い、町広報発刊
- 1954 昭和29年** 長万部商工会創立。静狩原野建設工事竣工式
- 1955 昭和30年** 天然ガス試掘事業により天然ガスと温泉が噴出(長万部温泉)
- 1956 昭和31年** 長万部町営温泉浴場開湯(昭和37年、売却)
- 1958 昭和33年** 乳牛保有数一千頭突破を記念し第一回家畜品評会実施
- 1959 昭和34年** 町営ガス供給事業に着手
- 1960 昭和35年** 国民健康保険事業を開始
- 1964 昭和39年** 長万部町営墓地完成



長万部高等学校一期生の卒業 昭和26年



長万部町営温泉浴場 昭和31年

長万部町の軌跡②

- 1913 大正2年** 凶作のため生活困窮農家が増加(175戸)
- 1917 大正6年** 静狩の金山に鉱区権認可
- 1918 大正7年** 静狩が長万部村に属す
- 1919 大正8年** 長万部に畜産市場が開設
- 1921 大正10年** 静狩で鰯大漁
- 1922 大正11年** 静狩湿原が国の天然記念物保有地に指定
長万部商業組合発会式
- 1923 大正12年** 一級町村制施行
長輪線長万部～静狩間鉄道開通
- 1927 昭和2年** 瀬棚線国縫～花石間鉄道開通
- 1928 昭和3年** 長輪線が全線開通
- 1929 昭和4年** 長万部魚商組合創立
長万部川が二度氾濫、近隣家屋に被害、長輪線脱線事故
- 1930 昭和5年** 南部陣屋跡に忠魂碑建立
- 1931 昭和6年** 不況と凶作により、浮浪者・欠食児童が増加。農林省水産局によるアイヌ民族のオットセイ猟の完全禁猟化
アイヌ文化展示施設としてエカシケル(祖先の尊き家)建設
- 1932 昭和7年** 黒松内機関区が長万部に移設。瀬棚線全線開通
- 1934 昭和9年** 長万部大火、99戸が罹災
- 1936 昭和11年** 字長万部149番地に役場庁舎新築
- 1940 昭和15年** 長万部漁業協同組合、フィッシュミール工場建設
市街地で町内会、集落で部落会の組織化に着手
- 1943 昭和18年** 2月11日、町制施行、長万部町となる
- 1945 昭和20年** 米軍艦載機により空襲。沖縄出身帰農者12戸が来町(緊急開拓)



長輪線脱線事故 昭和4年



イメージキャラクターの活躍（毛がにロードレース）
平成19年



イメージキャラクターの活躍
（毛がにロードレース） 平成19年

平成元年 ～ 平成16年

平成の大合併問題で、独立の道を選択。
長らく町の発展を牽引してきた鉄道が、昭和末期に廃線や廃駅など相次ぐのと入れ替わるように、北海道縦貫自動車道の開通など町は大きく変貌した。新役場庁舎が完成したのは、平成10年。数年後には「平成の大合併」の議論がスタートし、町を挙げての検討が進められたが、独立路線を選択することとなった。

長万部町の軌跡⑤

- 1990 平成2年** 長万部清掃センターが稼働開始。役場で電算システム業務開始
- 1991 平成3年** ふるさと創生事業による人材育成派遣事業が開始
B&G財団長万部海洋センター利用開始
- 1992 平成4年** 学習文化センター利用開始。長万部町まちづくり総合計画策定
公共下水道一部供用開始
- 1993 平成5年** 北海道南西沖地震、長万部町にも甚大被害
開基120年町制施行50年記念式典
- 1994 平成6年** 長万部漁港・国縫漁港完成
- 1995 平成7年** デイサービスセンター運用開始
- 1996 平成8年** 国道5号長万部バイパス開通、ふれあい公園が完成
あやめ公園/パークゴルフ場利用開始
- 1997 平成9年** 北海道縦貫自動車道長万部I.C.利用開始。資源ゴミ分別収集が本格化
- 1998 平成10年** 現役場庁舎・ふれあい健康センターが完成
- 1999 平成11年** おしゃまんべフェスティバルがおしゃまんべ毛がにまつりに名称変更
- 2000 平成12年** 有珠山噴火による被災者受入、第2次長万部町まちづくり総合計画策定
- 2001 平成13年** 高齢者福祉センターが完成し運用開始
北海道縦貫自動車道国縫I.C.、道道長万部公園線ふれあい大橋が開通
- 2002 平成14年** シルバーハウジング（大浜）完成
リレーポート山越が完成し、可燃ごみの広域処理開始
- 2003 平成15年** 開礎130年・町制施行60年記念式典
イメージキャラクター決定、現消防庁舎が完成
北渡島任意合併協議会（長万部町・八雲町・森町・砂原町・今金町）設置
- 2004 平成16年** 北渡島任意合併協議会解散、全国市町村あやめサミットを長万部町で開催
長万部町・黒松内町合併協議会6月設置、12月（第9回会議）解散



電算化以前の役場窓口（旧庁舎）



有珠山噴火による被災者受入
平成12年



瀬棚線廃止イベント・今金駅ホーム 昭和62年



瀬棚線廃止イベント・
国縫駅周辺で見送りする人々 昭和62年

昭和40年 ～ 昭和63年

公共施設の充実が進み、
高まる暮らしの利便性。
昭和30年代から引き続き、上水道や衛生処理場をはじめ、インフラの充実が図られた。昭和50年前後からは、福祉・スポーツ施設や町民センター、町立病院など、人々の暮らしを豊かにする施設も充実していった。地道な誘致活動が実り、昭和62年には東京理科大学の長万部キャンパスが開校した。

長万部町の軌跡④

- 1965 昭和40年** 二股温泉の石灰華が北海道指定天然記念物となる
- 1966 昭和41年** 字長万部453番地に町役場新庁舎を新築
- 1967 昭和42年** 山越郡衛生処理組合を八雲町と共同運営で発足（令和2年、解散）
- 1968 昭和43年** 公共上水道供用開始
- 1969 昭和44年** 長万部市街の各区画に通称名をつける。衛生処理場が業務開始
- 1971 昭和46年** 函館営林局が富野に肉用牛生産育成実験牧場を開設（昭和53年、閉鎖）
- 1972 昭和47年** 中央跨線橋、福祉センター完成
- 1973 昭和48年** ごみ処理場が業務開始。長万部町「議会だより」第1号発行
開基100年町制施行30年記念式典
- 1974 昭和49年** 長万部公園、ファミリースポーツセンター完成
東蝦夷地南部藩陣屋跡ヲジャマンベ陣屋跡が国指定史跡となる
- 1975 昭和50年** 台風5・6号による豪雨により町内で甚大被害
- 1977 昭和52年** 長万部町史刊行
- 1978 昭和53年** 特別養護老人ホーム長万部慈恵園、老人福祉センター利用開始
- 1979 昭和54年** 第1回町民花見大会開催
- 1980 昭和55年** 町民センター利用開始
- 1981 昭和56年** 長万部高等学校、新校舎へ移転
- 1983 昭和58年** 長万部町立病院が開院
開基110年町制施行40年記念式典、町木・町花制定
静狩漁港完成
- 1984 昭和59年** 国鉄分割民営化に伴い瀬棚線バス転換・JR北海道発足
- 1987 昭和62年** 東京理科大学長万部校舎（キャンパス）開校
- 1988 昭和63年** おしゃまんべフェスティバル初開催



温泉と元町を結んでいた中央跨線橋



静狩漁港完成 昭和59年



水柱浚渫（ボーリング）調査安全祈願祭 **令和5年**



冷温泉水（水柱）噴出 **令和4年**



まんべくん一日駅長 **平成23年**



まんべくンを長万部町広報室長に任命
平成24年

平成17年
～
令和5年

環境が激変する中、
新たなまちづくりが進む。
単独行政路線を歩み始めた長万部では、北海道新幹線の延伸に向け、工事とともに新たなまちづくりが進む一方、地方創生の一環で東京理科大学の力を借りてミニトマト生産も開始、着実に成果を出してきた。長く町民とともに歩んできた東京理科大学では、基礎工学部に代わり、経営学部国際デザイン経営学科の学生が長万部校舎で学ぶこととなった。

長万部町の軌跡⑥

- 2016 平成28年** 北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）が開業
東京理科大学基礎工学部創設30周年記念式典
シャクシャイン古戦場跡碑除幕式
- 2017 平成29年** 鉄道・運輸機構長万部鉄道建設所開所式
- 2018 平成30年** 先進的アグリビジネス事業発足
松前神楽が国指定重要無形民俗文化財となる
長万部町葬祭場を改修
胆振東部地震、北海道内で大規模停電
国縫振興開館を新築移転
- 2019 令和元年** 長万部町・黒松内町・豊浦町3町連携会議に関する協定書に調印（はしっこ同盟）
長万部町生活支援体制整備事業協議体が発足
シャクシャインロード事業実施
- 2020 令和2年** 各戸に防災ラジオを配布
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、東京理科大学長万部キャンパスにおける基礎工学部の授業実施見送り
第4次長万部町まちづくり総合計画策定
- 2021 令和3年** 長万部町地域公共交通活性化協議会が発足
- 2022 令和4年** 町内全域にインターネット光回線整備
天然ガス試掘坑跡から冷温泉水（水柱）が噴出
- 2023 令和5年** 東京理科大学経営学部国際デザイン経営学科の学生が入寮
開礎150年・町制施行80年記念式典



はしっこ同盟調印式（左から長万部町長・黒松内町長・豊浦町長） **令和元年**

- 2005 平成17年** 第1回長万部町単独行政運営協働会議開催
さかえ保育所新築、子育て支援センター設置
- 2007 平成19年** 「3・4・6駅前通」全線開通
- 2008 平成20年** 出前式「移動町長室」を開催
町と協同組合長万部町建設協会が災害時における協力業務に関する協定締結
- 2009 平成21年** 大中漁港完成
- 2010 平成22年** 第3次長万部町まちづくり総合計画策定
- 2011 平成23年** 東日本大震災
「インフォまんべ」営業開始
円空作仏像1体、アイヌ民族衣装4着、丸木舟1艘が町指定文化財となる
- 2012 平成24年** 長万部町で北海道新幹線新函館（仮称）・札幌間建設工事起工式・祝賀会
- 2013 平成25年** 戸籍事務の電算化開始
長万部町開礎140年・町制施行70年記念式典
- 2014 平成26年** 多目的活動センターあつまんべ利用開始
町と東京理科大学、災害に関する協定を締結
- 2015 平成27年** 長万部地方創生サミット開催
長万部町と東京理科大学との地方創生に係る包括連携締結



真冬のピアガーデン、あつまんべで初開催
平成27年



さようなら藤沢駅！ **平成29年**